

紫式部ゆかりの地

社寺・施設	所在地	内 容	JR京都駅からの交通
大徳寺真珠庵（非公開）	北区紫野大徳寺町	産湯の井戸。この辺りで出生し、幼少期を過ごしたと伝わる。	A3のりば市バス206番 「大徳寺前」下車
廬山寺	上京区寺町通広小路上る	紫式部邸宅跡で源氏物語はここで執筆されたとされている。桔梗の庭として知られる源氏の庭、式部と娘の大式三位（だいにさんみ）歌碑、玄関には紫式部像がある。 「有馬山 みなのおさ原 かぜふけば いでそよ人を 忘れやはする」（大式三位） 「めぐりあひて みしやそれとも わかぬまに 雲かくれにし 夜半の月影」（紫式部）	A2のりば市バス4・17・205番 「府立医大病院前」下車
つちみかど でんあと 土御門殿跡	上京区京都御苑内 （迎賓館南辺り）	藤原道長の邸宅・土御門殿の跡。 紫式部は道長の娘・彰子（しょうし）に出仕していた。	A2のりば市バス4・17・205番 「府立医大病院前」下車
びわ でんあと 枇杷殿跡	上京区京都御苑内 （梅林辺り）	藤原道長の邸宅・枇杷殿の跡。出仕している彰子が土御門殿から移った。 紫式部が清少納言と才を競ったのもこの屋敷と云われる。	A2のりば市バス4・17・205番 「府立医大病院前」下車
片岡社（片山御子神社） （上賀茂神社境内摂社）	北区上賀茂本山339	上賀茂神社の第一摂社で、本殿祭礼の際はまずここに参ることになっている。紫式部もしばしば参拝し、「ほととぎす 声まつほどは 片岡の もりのしづくにたちやぬれまし」という歌を詠んだ。	A2のりば市バス4番 「上賀茂神社前」下車
清水寺	東山区清水1丁目	長和3年(1014)、紫式部は彰子の病氣平癒を祈願し参籠した。	D2のりば市バス206・86番 「五条坂」下車
紫式部の墓所	北区紫野西御所田町	小野篁の墓と並んでいる。	B1のりば市バス9番 「堀川鞍馬口」下車
いんじょうじ せんぼん どう 引接寺（千本ゑんま堂）	上京区千本通廬山寺上る	至徳3年（1386）建立の十重の石塔は式部の供養塔と云われている。	A3のりば市バス206番 「千本鞍馬口」下車
大徳寺大慈院（非公開）	北区紫野大徳寺町	寛政7年（1795）建立の顕彰碑。（顕彰碑とは個人の著名でない功績や善行などを称えて、広く世間に知らしめるために建てられる石碑などのこと）	A3のりば市バス206番 「大徳寺前」下車
浮舟ひろば	宇治市宇治橋西詰	紫式部石像。源氏物語宇治十帖を書いたことにちなんで設置されている。	JR奈良線「宇治」下車
京都文化博物館	中京区高倉通三条上る	紫式部乾漆像。2階エスカレーター横に設置。	地下鉄烏丸線「烏丸御池」下車
小倉百人一首文芸苑	右京区 嵯峨二尊院門前長神町	落柿舎から少し北に行った左手の「長神（ちょうじん）の杜」に小倉百人一首に載っている紫式部の歌碑がある。 「めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に 雲隠れにし 夜半の月かな」	C6のりば市バス28番 「嵯峨釈迦堂前」下車